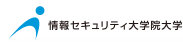


Welcome to ISS square

世界に通用する情報セキュリティスペシャリストを育成しよう。
情報セキュリティスペシャリスト教育のスタンダードを世界に向けて発信しよう。
学界・産業界の枠を超え、大きな使命感を共有した斯界の第一人者たちの力を集結しました。



プログラム連携各機関からみなさまへ

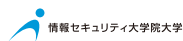


情報セキュリティ大学院大学
学長
教授
ISSスクエア代表

後藤 厚宏 Atsuhiko Goto

情報セキュリティが対象とする領域は日々膨張しています。この広い技術領域に取り組むためには、大学や企業、研究機関の相互の協力が必須です。本プログラムは、組織を超えて研究者・技術者が連携し、情報セキュリティ分野における世界最高水準の人材を育成するプログラムです。充実した講義群により、幅広い学びとともに、企業や研究機関でのインターンシップや、実務家からの最新情報を交換しあうオムニバス講義、分野横断型研究会を通して、未知な課題にチャレンジできる能力を身につけることができます。また、学生、実務家、教員に跨って形成できるコミュニティは一生の財産になります。本プログラムを活用して、情報セキュリティにおける世界のスペシャリストとして活躍されることを期待しています。

1984年東京大学・工学博士。NTTおよびICOTにて並列マシンの研究開発に従事。90年代に米国でNTT研究所分室を開設し、Web応用プロジェクトを推進。帰国後、新規インターネット事業を立ち上げ。研究所長としてセキュリティ、クラウド、メディア処理の研究開発を推進。2011年7月より情報セキュリティ大学院大学教授。2017年4月より同学長。情報処理学会フェロー。



情報セキュリティ大学院大学
情報セキュリティ研究科
教授

有田 正剛 Seiko Arita

情報セキュリティ大学院大学では、2004年の開学以来、新しい専門の体系化と専門家の育成を旗印に、情報セキュリティ専門の大学院大学として教育と研究に携わってきました。このISSスクエアプログラムでは、情報セキュリティの現場で活躍されている、多くの連携企業の方々にご協力頂き、時代に即応した専門知識と実務的能力を兼ね備えた人材を育成するためのプログラムを用意しています。あなたもぜひ、このISSスクエアに参加して、個別の修士論文テーマの追及だけでは得難いような、幅広い視野とタイムリーな課題意識そして横断的人脈を培ってください。

京都大学大学院理学研究科数学専攻修了、中央大学大学院理工学研究科情報工学専攻修了。博士(工学)。日本電気株式会社インターネットシステム研究所主任研究員を経て、2004年4月より情報セキュリティ大学院大学教授。主な研究対象領域は、暗号理論。



(国研)情報通信研究機構
サイバーセキュリティ研究所
研究所長

井上 大介 Daisuke Inoue

サイバーセキュリティを格好しい仕事に!を目標に、NICTでは日本最大規模のサイバー攻撃観測網を構築して、サイバー攻撃の実データを収集・分析・可視化し、効果的な対策へと繋げるための研究開発と成果展開、そして人材育成にも取り組んでいます。ISSスクエアは産学官の組織を超えて、世界最高水準の人材を育成するプログラムであり、我が国の情報セキュリティコミュニティにおいて重要な場となっています。ぜひ本プログラムにご参加いただき、研究者や技術者として日本のセキュリティと一緒に向上させていきましょう。

1997年に横浜国立大学でセキュリティ分野の研究開発を始め、2003年に同大学院工学研究科博士課程後期修了後、通信総合研究所CSL(現NICT/NICT)に入所。2006年よりインシデント分析センター「NICTER(ニクター)」を核とした実践的サイバーセキュリティの研究開発に従事。博士(工学)。



沖コンサルティング
ソリューションズ(株)
シニアマネージングコンサルタント

杉尾 俊之 Toshiyuki Sugio

"Open up your dreams", OKIのブランドスローガンは、世界の人々の心豊かで安心、安全な夢の社会への扉を開くことを表しています。安心、安全な社会の実現に向けて、情報セキュリティの世界で皆さんと一緒に夢の扉を開いてゆきましょう。

1982年沖電気工業株式会社に入社。人工知能、自然言語処理の研究開発に従事。機械翻訳システムの開発などを経験し、1998年より、技術経営、経営戦略企画業務に従事。2019年4月より現職。



中央大学
理工学部 情報工学科
教授

牧野 光則 Mitsunori Makino

このプログラムでは、中央大学の建学の精神「實地應用ノ素ヲ養フ」やこれに基づくユニバーシティ・メッセージ「行動する知性」にも合致した、情報セキュリティの中核分野を深く理解し、長期的な技術の方向性をふまえてマネジメントや研究開発ができる人材を、講義、実践、リサーチを通じて養成します。毎日発生している情報セキュリティ上の課題をも踏まえて考案する。中長期的な解決策を具現化して社会に貢献できる知識、能力、ならびに、行動特性を習得しませんか。幅広いバックグラウンドをもつ皆さんの積極的な参加を歓迎します。

1992年早稲田大・博士(工学)。1992年～中央大学勤務。2004年より教授。2009～2013年理工学部部長補佐。2009年～理工学部「段階別コンピテンシー育成教育システム」取組担当。2003～2008年21世紀COEプログラム「電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ」事業推進担当者。2007年～ISS Square幹事(中大担当)。



国立情報学研究所
アーキテクチャ科学研究所
教授

竹房 あつ子 Atsuko Takefusa

多種多様なセンサから得られる大量のデータを収集、解析し、様々な社会問題の解決や新たな価値の創造に利用されることが期待されています。一方で、ハードウェア、OS、ソフトウェア、ネットワークからクラウドプラットフォームに至るまで、様々なセキュリティ上の脅威にさらされています。私達はシステムソフトウェアと理論の技術を融合させて、安全、安心なIoTシステムの実現を目指し研究を進めています。ISSスクエアの場でもみなさんと一緒に議論できることを楽しみにしています。

2000年お茶の水女子大学・博士(理学)。お茶の水女子大学、産業技術総合研究所を経て2016年4月国立情報学研究所入所。2021年4月より現職。総合研究大学院大学複合科学研究科情報学専攻教授兼任。並列分散処理、グリッド、クラウド、エッジ、IoTに関する研究開発に従事。



(国研)産業技術総合研究所
情報・人間工学領域長

田中 良夫 Yoshio Tanaka

サイバーフィジカルシステムには、従来のサイバーセキュリティのようにサイバー空間に閉じているセキュリティでは対応しきれない課題が存在します。また、大量のセンサから計測されるデータの漏洩リスクを最小限に抑えつつ有効に利用するためのセキュリティやプライバシー保護も必要となります。産総研は社会実装のシナリオを描きながらサイバーフィジカルシステムのセキュリティに関する研究に取り組んでいます。技術的な側面だけでなく、制度設計や事業化のシナリオなど様々な観点から皆さんと議論できることを楽しみにしています。

1995年慶應義塾大学・博士(工学)。新情報処理開発機構(RWCP)を経て2000年に電子技術総合研究所に入所。2001年より改組により産業技術総合研究所。分散環境におけるセキュリティやミドルウェアの研究に従事。



(株)KDDI総合研究所
執行役員
先端技術研究所
セキュリティ部門長

清本 晋作 Shinsaku Kiyomoto

通信サービスのみならず、位置情報サービス、モバイルコマースなど、ICTが個人の生活に深く関わる昨今において、セキュリティ対策やプライバシー保護は益々重要な課題となっています。弊社では、KDDI Accelerate 5.0において、セキュリティ技術を7つの重要な技術の1つと位置付け、様々な先端研究を推進しています。本プログラムを受講される皆様には、セキュリティに関わる領域の重要性や多様性に加え、セキュリティ技術に取り組む面白さも感じて頂き、社会を支えるセキュリティ技術者/研究者として羽ばたかれることを期待いたします。

2000年KDDI株式会社入社以来、KDDI総合研究所にて、暗号、暗号プロトコル、プライバシー保護、等の研究に従事。博士(工学)。

Welcome to ISS square

プログラム連携各機関からみなさまへ

TOSHIBA



(株)東芝
研究開発センター
サイバーセキュリティ技術センター
技監

秋山 浩一郎
Koichiro Akiyama

PCや家電だけでなく社会の根幹を支えるインフラシステムにまでサイバー攻撃が及ぶようになり、ネットワークに繋がりが得る全ての機器にセキュリティ対策が必要となっています。また、高度化・多様化する攻撃に対応するには、暗号技術だけでなく、通信プロトコルやその実装技術、更にはシステム設計や運用設計にも安全性の観点が求められます。このプログラムを通じて、情報セキュリティの幅広さと奥深さを知り、いずれかの分野で新しい世代を担うセキュリティ技術リーダーとして活躍して頂くことを期待しています。

1988年上智大学大学院理工学研究科数学専攻博士前期課程修了。同年東芝に入社。研究開発センターにて情報セキュリティの研究開発に従事。専門は公開鍵暗号の設計。工学博士。

インターネットでデータがつながり、SNSで人がつながり、IoTでモノがつながり、さらにAIが人の情報処理の限界を越えようとしています。その中で信頼(トラスト)も、PKIのように信頼できる第三者によるものから、ブロックチェーンのように皆で守るという発想も現れてきています。こうした変化の中、セキュリティは守り/攻めのビジネス両面で安心・安全を支える技術として常に期待されています。皆様には、技術に加えて社会・法律の広範な知識と柔軟な発想を兼ね備えたセキュリティ技術リーダーとなられることを期待いたします。

1989年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。同年富士通研究所に入社。知識処理(第五世代コンピュータ)、Webマイニング、メールセキュリティ、プライバシー保護、ブロックチェーンに関する研究開発に従事。博士(理学)。

FUJITSU



富士通(株)
フェロー兼
データ&セキュリティ
研究所長

津田 宏
Hiroshi Tsuda

さまざまな物が繋がるようになってきた今、複雑な世界をいかに安全かつ便利にしていくかは、情報セキュリティやプライバシーの知識無くしては実現できません。高度なセキュリティ人材の育成は、今後の世界を支える基盤になるものと考えています。IBMの基礎研究所の一つである東京基礎研究所でも、世界中の研究者と共に様々なセキュリティの課題に取り組んでいます。弊社の連携が、本プログラムに参加されるみなさんが高いセキュリティのスキルを身につけ世界にインパクトを与えられる人材となるための一助になることを期待します。

2001年東京工業大学基礎物理学専攻修了後、日本IBM東京基礎研究所にてセキュリティやプラットフォームに関する研究開発に従事。現在はクラウドのセキュリティやセキュリティ・インテリジェンスの研究を推進。2010年同大学計算工学専攻修了。博士(工学)。

IBM



日本アイ・ビー・エム(株)
東京基礎研究所
ハイブリッドクラウド&セキュリティ
担当部長

佐藤 史子
Fumiko Satoh

様々な家電がインターネットにつながるようになり、製品のセキュリティの重要性が増してきました。皆さまが安心して家電やサービスを使えるように、セキュリティ技術者に求められるものはより広範囲になってきています。パナソニックでは販売前の製品の脆弱性を低減するセキュリティ診断等の取組み、販売後の脆弱性やインシデント対応等のPSIRT(Product Security Incident Response Team)活動を通して、お客様への、そして社会のセキュリティ向上に貢献できるよう取り組んでいます。今回のような大学との連携を通して、皆様とセキュリティへの取組みを深めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

2006年横浜国立大学博士課程修了。2006年~2016年には(独)情報処理推進機構においてセキュリティ調査・普及啓発活動に従事。2016年4月から現職。担当は国内外の製品セキュリティ強化に向けた課題解決、方針策定等。Panasonic-PSIRT(Product Security Incident Response Team)メンバー。博士(情報学)。

Panasonic



パナソニックホールディングス(株)
テクノロジー本部
製品セキュリティセンター
製品セキュリティグローバル戦略部
部長

中野 学
Manabu Nakano

HITACHI
Inspire the Next



(株)日立製作所
研究開発グループ
サービスシステムイノベーションセンタ
主管研究員

鍛 忠司
Tadashi Kaji

企業情報システムばかりでなく、昨今は制御コントローラや産業機械もマルウェアなどの様々な脅威にさらされています。社会インフラシステムを多種多様な脅威から守り、安全な社会活動を確保するには、情報セキュリティ技術を使いこなし、社会インフラ分野の技術と融合させることが求められています。皆様が本プログラムを通じてセキュリティ技術や法制度を体系的に理解し、社会の安心・安全を俯瞰的に設計する視点を持った技術者となられることを期待します。

1996年大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了。同年(株)日立製作所入社。以来、システム開発研究所、横浜研究所にてシステムセキュリティの研究開発に従事。博士(情報科学)。

NTT



日本電信電話(株)
社会情報研究所
所長

中嶋 良彰
Yoshiaki Nakajima

情報技術の進歩は、日常のコミュニケーションを変え、人間関係、教育や文化、働き方、経済活動、国際関係など、社会のさまざまなシーンに変化をもたらしています。今後も進歩する情報技術を、「社会をより良い方向に変えるもの」とすると同時に「社会に不利益をもたらさないもの」とするために、情報セキュリティは不可欠な要素です。本プログラムを通じて情報セキュリティの知識・技術を体系的に習得し、「情報セキュリティによって幸福かつ豊かな未来へと社会を導けるスペシャリスト」に成長されることを期待しています。

1997年東京工業大学大学院数理・計算科学専攻修士課程修了。同年NTT入社後、認証・認可等の暗号応用研究、セキュリティマネジメント業務、サイバーセキュリティ対策技術の研究等に従事。2024年7月より現職。

NEC



日本電気(株)
グローバルイノベーション戦略部門
シニアプロフェッショナル

谷 幹也
Mikiya Tani

現在提供されているサービスは、様々なプレイヤーのサービスが複雑に絡みあい最終的なお客様に提供されています。今後、連携の規模が大きくなり、お客様の要求に応じてダイナミックに連携がなされるようになっていく中で、サービス間の連携やサービス中の処理において、なりすましや情報の漏洩・改竄は、より深刻な問題となってきます。これらを解決するためには、いち早く新たなアーキテクチャにおける脅威・リスクの分析・把握を行い、そして暗号・暗号プロトコル/認証/アクセス制御といった基礎的技術を組合せて対策を講じていく能力が必要となります。本プログラムにおいて、基礎技術の習得と共に現場での課題、必要な能力を吸収し、世の中の安心安全に貢献できる人材となっていただけよう期待しています。

1988年京都大学工学研究科数理工学修士卒業。NEC入社後、言語解析、自然言語インタフェース、電子図書館、著作権管理システムの研究、セキュリティ研究の技術統括を経て、現在、システムティベンダビリティの中核となるモデル化・評価技術を中心とした研究の統括を行っている。

MITSUBISHI
Changes for the Better



三菱電機(株)
開発本部
主席技監

松井 充
Mitsuru Matsui

私が暗号に初めてかかわった30年前は、研究者人口も少なく、ビジネスもわずかなものでした。当時は、現在のように暗号技術が誰にとっても身近なものになるとは予想すらできませんでした。この分野における当研究所の特長は、暗号理論から実装手法、システム化まで情報セキュリティにかかわるさまざまな専門分野の技術者がひとつのフロアに集結しており、さまざまな視点で議論できることだと思っています。最近では量子暗号のような未来の暗号技術にもチャレンジしています。学生の皆さんには、技術、法律、倫理など幅広い観点から情報セキュリティに取り組まれることを期待します。

京都大学理学研究科数学専攻修士課程卒。三菱電機入社後は誤り訂正技術、暗号技術の研究開発に従事。1999年欧州にて第三世代携帯電話(W-CDMA)世界標準暗号開発に参加。専門は共通鍵暗号の設計・評価。